

2. 清掃関連施設整備計画等について問う

(1) 不燃ごみ等の減量とリサイクルについて問う

次に、清掃関連施設整備計画について市長の見解を伺います。まず、不燃ごみの減量とリサイクルについてであります。

私はかねてから、不燃ごみの減量とリサイクルについては、もっと徹底して行うことが必要であると考えております。とりわけ、私などもよく飲んでしまうペットボトルです。トン当たりのペットボトルの処理費用は5万8,298円で、大変高い方に入っています。

これの店頭回収などを是非行っていただきたいということで要望してまいりました。

今、イトーヨーカ堂を始め、オーケーストアなどは、清掃事業の概要を読みますと、独自回収をやっているということではありますが、いなげやとかは、ペットボトルを持っていくと、ポイントが付くということやっていて、イトーヨーカ堂も、今、ペットボトルを持っていくと、nanacoポイントが付くようになっているんです。そういう機械を今、いなげや、イトーヨーカ堂などが入れ始めていて、実はセブンイレブンも、今、この設置を始めています。大体150個入ると500個入るのがあるんですが、こういうコンビニ用小型ペットボトル自動回収機を東京近辺ではセブンイレブンが入れ始めていて、大体2,000件ぐらいは入っているということでしたかね。セブンイレブンが市内でどのぐらいあるかご存じですか。（「20か所」と呼ぶ者あり）20か所、21か所ぐらいあるんです。

ですから、セブンイレブンだけで小型回収機を入れていただければ、ちょっと計算しましたら、大体10%ペットボトルが減になると。いろいろ計算すると、150個と考えると、ペットボトル500ミリリットルは大体20グラムぐらいだと。365日、150個集まると、109万5,000グラムになるんです。これを計算すると、約1トンぐらい、それが20か所だと20トン。今、320トンぐらいですから、10トンまでは行かないかもしれませんが、こういうことで考えられるということで、是非これを市内のイトーヨーカ堂だけでなく、ファミリーマートとか、今、本当にコンビニが多くなっていますが、こういうところに設置をし、販売者と製造者が責任を持って収集するように各店舗に要請をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それから、二つ目に、空き缶なんですけど、まちをきれいにする条例で市内の自動販売機の横には回収箱を設置するというのが義務規定になっています。ずっとこれの点検をしてほしいということを書いてきたわけですが、自動販売機の空き缶については自己回収をしてもらうと。販売業者に回収してもらうというシステムをもっと徹底してほしいと思うんですが、現状調査の状況はどうなっているか伺います。

○環境部長（柿崎健一） まず、不燃系ごみの多くを占めているのが、容器包装廃棄物というのは、森戸議員の言われている容器包装リサイクル法という法律に沿って、ペットボトルですとか、プラスチックなどを確か平成9年から回収させていただいているところで、こちらは容器包装リサイクル法に基づいてやってきているところがございます。また、市独自で

も燃やさないごみの3分別収集など一定の施策は実施させていただいてきているところですが、ここ数年、人口の増加ということも原因の一つにあるのかなと思いますけれども、燃やさないごみですとか、プラスチック、それから、ペットボトルも結局、リサイクルしようとして回収すれば、当然増えてきてしまうという現状があるのかなと私は思っているところがございます。先ほどもご案内いただいたように、メーカーですとか、スーパーなどの販売店による自主回収ですとか自主処理、それからまた、ご家庭の皆様にも家庭に持ち込まない日常生活というのを送っていただく、いわゆる発生抑制というものに努めていただくというのが、やはりごみの減量にとっては一番大きな施策なのかなと私はこの頃つくづく感じているところがございます。その点ではごみゼロ化推進員の皆様との協働で、この点、リサイクル推進協力店などは拡大してきているところがございます。いなげやを始め、いろいろなところでやっていただいているなというのは思っているところがございます。

一方で、イトーヨーカ堂の話、それからセブンイレブンの話というのが出ましたけれども、確か昨年にセブンイレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂等と協定を結んでおりますので、その中には確か、記憶の中では、環境という部分でも是非協力をしていきたいという話があったと思っておりますので、そういった点を踏まえて、今後、話し合いをさせていただきながら、どういう協力をしていただけるかというのは、今日初めてのご提案を頂いたものですから、今、そういったような答弁しかできませんけれども、一応そういう形で前向きに捉えてやっていきたいなと思っているところがございます。

それから、空き缶の自動販売機のところということで、一定、ついているところについては、車が来て、補充をしているときに一緒に空き缶などを持って行っていただいているというシステムは、メーカーによってだと思えますけれども、やっていただいているところもあるのかなというのは認識しているところがございます。ただ、それが市内全部の自動販売機でそうなっているかというところについては、私の方では今、ちょっと手持ちの資料がないので、何とも言えませんけれども、ただ、そういった努力というのは必要だと私も思っておりますので、そこら辺については、今後、ごみ対策課の方でどのような形で、また、市民協働という形でごみゼロ化推進員の皆さんも確か調べたり何かすることもやっていただいていたと思っておりますので、そういった結果に基づいて、今後、進めていけるところについては進めていきたいなと、このように思っているところがございます。

○24番（森戸洋子議員） ありがとうございます。

容器包装リサイクル法が制定されてから、ペットボトルの生産量がうなぎ登りに増えたわけです。川上では、企業はどんどんペットボトルを生産していくわけです。その川下の自治体は、容器包装リサイクル法に基づく高い処理費用とストックヤードを造らなければいけない。私はこの矛盾は何としても解決しなければいけないし、製造者責任、排出者責任、こういうことがしっかりとごみ施策に乗れるような対応を是非お願いしたいし、市内にある企業、また市長会や部長会を始め、様々な機会での問題を課題にさせていただきたい、国にも

要望していただきたいということを強く申し上げておきたいと思います。

(2) 地元住民の声を聞かず、拙速にパブリックコメントを実施したことは「市民と対話する」との公約に反するのではないか。

地元住民の声を聞かず、拙速にパブリックコメントを実施したことは、「市民と対話する」との公約に反するのではないかという問題について伺いたいと思います。2月26日に二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会が開催されました。この協議会の委員の皆さんがまだ意見交換している最中なのに、パブリックコメントを行うことはやめるべきだという声が出されたにもかかわらず、小金井市はこのパブリックコメントを強行されました。この協議会の結果はどうだったのか、まず伺います。

○環境部長（柿崎健一） 2月26日の二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会の状況ということでもよろしいのかなと思うんですが、こちらにつきましては、ご案内のとおり、2月26日、午前中でしたけれども、マロンホールの方で第12回二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会を開催させていただきました。この中で、パブリックコメントのことというよりも、むしろ何人かの委員の方からは二枚橋焼却場跡地に建設することについては最終的には納得がいかないというようなご意見があったところでございます。

そのような中で、私は、環境部長なんですが、二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会の会長も仰せつかっているところから、そういう中で私といたしましては、施設整備について建設予定地周辺にお住まいの方々のご意見・ご要望については今後も聞いていきながら、より良い施設整備をしていきたいなという考えは持っていたところなんですが、その前の第11回のとき、第12回、今回のご意見などを踏まえると、本協議会での継続というのはなかなか難しいのかなと判断をさせていただきました。その協議会の中でも委員の方からは、この協議会をやっても意味がないとか、いろいろなご意見を頂いてしまったところもありますので、私といたしましては、今回をもって終了させていただいたところでございます。

ただ、市といたしましては、来年度以降もこの建設基本計画が策定されて、それに沿って施設整備に向けての地元のご意見やご要望については承りながら施設整備をしていきたいという考えを持っておりますので、ご意見などを伺う場は今後も設けていきたいと、このように考えているところでございます。

○24番（森戸洋子議員） ひどいですね。何がひどいかって、市の対応がひどいということです。市長、私は施政方針の質疑のときに市長の施政方針での見解を読み上げました。

「市政運営の基本を対話であると申し上げてまいりました。職員には市民の皆様の率直な声に耳を傾け、その声を市政に反映できるよう最大限の努力を行うことを求めています」というふうに述べていらっしゃるんです。

しかし、実際にこの清掃関連施設の計画で起こっていることは何かというと、今の状況で

す。

結局、慎重かつ丁寧に行いたいといいながら、市民との対話については、平行線というか、かみ合わないままでこの協議会が行われ、協議会の皆さんも時間を割いて来ているわけですが、一向にかみ合わない議論には、もうやっても難しいと、無駄だというような思いにさせているということだと思えます。パブリックコメントをかけられて、50人、104件の意見が出されております。これを読んでも、まだこれは途中経過だと思うので、市の方の見解は読み上げませんけれども、多くの皆さんがここに造ることに反対の声を述べています。

ちょっと紹介すると、「二枚橋焼却場跡地は武蔵野公園、野川公園に近接する場所であり、貴重な緑地のそばに新たなごみ処理施設を持ってくる意味が理解できません。緑地の拡大に向かう発想の方が自然ではないかと考えます。ここにごみ処理施設を建設することについては、近隣住民である私たちの合意は得られていないはずで、市民の声を無視して、行政側の論理で立論し進めていくような封建的手法はもうやめた方がいいのではないですか」というふうに指摘をされているんです。

その回答はかみ合っていないんです。「私たちは新たな公園を整備する方針は持ち合わせていません」と。だったら何でパブリックコメントを市民に求めるんですか。持ち合わせていなくて、ただ、アリバイ作りじゃないですか。

市長の選挙の公約は何ですか。市民参加を進める、アリバイ作りの市民参加はやめましようというのが市長の公約です。しかし、現実にはこういう本当に丁寧に意見が出ている。もうちょっと紹介すると、「地元の声を聞くべきだ」と。「二枚橋焼却場に再処理施設を造ることに反対です」と。「二枚橋周辺住民は過去49年間同地でのごみ焼却場を受け入れてきましたが、今、再度、当地にごみ処理施設を建設することは、二枚橋イコールごみ処理場のイメージを固定化することになり、将来世代に対する責任上、絶対に賛成できません。憲法14条には平等の原則が規定されており、これを実現するためには、二枚橋以外地に、ごみ処理適地を探し出すのではなく、つくる努力をしてください。武蔵野市に学ぶべきです」と、そういうご意見がありました。市長はこの意見を読まれましたか。今、協議会に提案されている回答については、市長はご覧になっていらっしゃるのでしょうか。市長が言われる対話というのはこういうことなんでしょうか。市長の見解を伺います。

○環境部長（柿崎健一） この間、市といたしましては、平成28年11月以降、協議会を延べ12回開催させていただきました。協議会以外にも、例えば市内及び他市、3か所だったかと思いますが、施設の見学会ですとか、それからあと公害防止計画等の勉強会なども精力的に実施をさせていただきました。

また、協議会とは別に、平成28年6月から市長と私とごみ対策課長の3人で協議会への参加依頼のため、東部の環境を良くする会へも、確か3回か4回だったと思いますが、参加をさせていただいたところで、また、平成29年11月の確か24日か25日頃だったと思いますが、一つの地元町会へ清掃関連施設整備基本計画について説明をさせていただいたところで、この隔たりといいますか、信頼関係を築くということにはなかなか至ら

なかったのかなというのは、非常に残念でもあるし、私の力不足であったと反省をしているところでございます。ただ、第1回目の協議会の段階から二枚橋焼却場跡地に建設することに対し反対を表明されている委員の方々とは、そもそも協議会の位置付けなどに関しても隔たりがあったなというところがございます。そういった点では信頼を築くことができなかったというのは、再度になりますけれども、非常に残念に思っておりますし、私の力不足であったと。ただ、来年度以降も我々は引き続き施設整備に向けて、市民の皆様、周辺の皆様にご意見・ご要望を伺いながら、より良い施設整備に向けてやっていきたいなと、このように思っているところでございます。

それと、先ほどパブリックコメントの方のご意見についてもいろいろご紹介いただいたところでございますけれども、我々とする、やはり二枚橋焼却場跡地に施設を建設するというところで、今回、基本計画の策定をさせていただいておりますので、そういったところについては、確かに、全部を公園と言われますと、そもそも私たちは施設の方を造りたいと考えているところでございますので、公園という部分についてはちょっと厳しいのかなと思っているところでございますけれども、その分、施設周辺とかそういったところには一定の緑地を設けたりとか、歩道の周辺にも緑地を設けたり、また、災害廃棄物の置場も考えておりますので、災害が起きないときには、その置場というのは一定のスペースを確保できておりますので、そういったところについては周辺の住民の方々がどのように使っていきたいのかとか、確か昨日だったかと思っておりますけれども、たゆ議員の方からバスケットボールコートを設置をなんていう話もございましたので、そういった部分についてももし置けるのであれば、我々としては置いていきたいなという気も思っておりますけれども、ただ、ここはあくまでも地元の方々とのお話し合いを持った上で、どういう形の整備ができていくかということについては、ご意見等を伺いながらやっていきたいと、このように思っているところでございます。

○市長（西岡真一郎） 森戸議員の一般質問にご答弁いたします。

12回にわたりまして協議会を開催させていただきました。また、この会合12回以外にもいろいろな準備や様々なことでお伺いさせていただいたと思っておりますし、私も協議会の設立前には地元にお伺いさせていただいて、率直な声また厳しい声も聞かせていただきました。そういう状況であったからこそ、東部の環境を良くする会の皆様方にもこの協議会に入っていただきたいという思いで、視察にも大変熱心に行っていただきましたし、本当に真剣な議論を交わさせていただきました。したがって、その対話をする努力は、担当職員も私は一生懸命取り組んでいただいたというふうに認識しております。この件は、地元の皆様方の理解を得るといふことと、そして12万市民の生活を支えていくというこの二つを目指さなければいけない状況であり、私といたしましては、引き続き市民の方々との意見交換を継続してやっていかなければいけないというふうに考えているところであります。

○24番（森戸洋子議員） 全く答弁になっていないです。対話をするのが市長は目的なんです。私は施政方針で言いましたよね。対話というのは、意見の違いがあるのを、お互い

が話し合っただけで協議をして、すり合わせて一つのものにまとめるのが対話なんです。

これは一方的な押し付けでしか何でもないじゃないですか。なぜこれが対話なんですか。しかも、皆さん無償で、本当にいろいろな時間を割いて12回、2年間もやってきた。もともと、東部の環境を良くする会に来られてとおっしゃいますが、東部の環境を良くする会は一貫して公園を造ってほしいと。それは、東部の環境を良くする会の皆さんが1,000枚のアンケートをまいて、返ってきたその結果を見たら、多くの人たちが公園を望んでいるということだったわけです。話合いの経過を情報公開請求ですっと見ていますけど、東部の環境を良くする会から要求しても、そのことを話し合っているという形跡が全くないんです。本当にこれはひどいなと思いました。これは前市長時代でもありましたけれども、こういう状況で地元の声が置き去りにされると。その中で12万市民のためだと言って押し付けられるというのは、私は、この民主主義の時代、先ほど読み上げましたけど、封建時代と同じようなことを小金井市がやっているということを指摘せざるを得ません。そのことは是非今後、信頼関係を築けてこれなかったと反省すると言われるんですが、反省だけでなく、どうするのかということを示していただきたいと思うんです。

この二枚橋焼却場跡地周辺自治会等協議会に出ているのは、町会の代表です。市民公募しているわけではなく、町会の代表との信頼関係が築けなかったということは、いろいろなことに影響が出るし、今後の将来に禍根を残すことになると思います。地元住民が、憲法第14条で法の下での平等をうたっている、これを無視するものではないかという根本問題を問われているわけですから、市長はこうした声に耳を傾けるべきなんじゃないんですか。その点について伺っておきたいと思います。

それと、もう一つは、担当は市役所建設に当たっては、一定のスペースを設けていきたいということ言われています。清掃関連施設整備基本計画(案)では、粗大ごみの展示・販売を二枚橋焼却場跡地か、もしくは中間処理場に持っていくということになっていますが、こうしたことについてはやめて、市役所内で粗大ごみの展示・販売を常設させることなどを検討すべきではないかというふうに思っています。中間処理場周辺の皆さんにとっても二枚橋焼却場跡地周辺の皆さんにとっても、いかに負担を軽くしていくのか、そしてごみの処理がどうなっているのか、どこが引き受けているのか、こういうことを明確に多くの市民の人につかんでいただく必要があるんじゃないかと思いますが、その点の見解を伺います。

○環境部長(柿崎健一) まず、粗大ごみの方についてでございます。清掃関連施設整備基本計画においては、二枚橋焼却場跡地で手解体をさせていただいて、素材ごとに適切な処理をしていこうと考えております。先ほど森戸議員の方からも言われたような形のことですけれども、リサイクル事業所なんですけど、リサイクル事業所の現況ですとか、あと、ここ数年、ちょっと安い値段で家具などの販売をされているようなお店もあることから、どちらかというと、同程度の金額であれば新品を購入していくという傾向にあることなども考慮すると、現在も年に何回かイベントという形で、日曜日だったかと思っておりますけれども、販売をリサイクル事業所の方ですると、それなりの金額の売上があるという話を聞いておりますので、我々とすると、常設の展示・販売というよりかは、どちらかというと、リユースなどの可能

な粗大ごみを一定保管させていただいて、年何回かのイベントなどの販売といったことの方がいいのかなということも含めて、現在、リユース事業の在り方ということについては検討させていただいているところでございます。

それから、先ほど出ました、両協議会の方からも出ているご意見といたしましては、新庁舎の建設計画に当たっては、今、森戸議員が言われたような、どういったところでどういったごみの処理をしているのかとか、それからまた、最終処分場というのはどういったことで必要なかといったこと、それからあと、ごみや資源物はどのように変化して、最終的にリサイクルされるものについてはどういうものになるのかななどを紹介するようなスペースを設けてほしいという要望が両協議会からもございましたし、我々もそういったものは必要なのではないかということも認識しているところでございますので、多くの市民の方が訪れる庁舎内に一定のスペースを確保していきたいと思っておりますので、こちらについては、現在、担当の方に要望させていただいております、協議をしているところでございます。

(3) 平成 29 年度中の決定は中止し、候補地選定委員会の設置を改めて求める。

○24番(森戸洋子議員) 庁舎建設予定地も準工業地域に指定されているわけです。それぞれが12万市民がどうやってごみを処理していくのかということを考えてみると、本当に一部だけが負うような状況になってしまうので、そこは検討を求めたいと思います。

次に、平成29年度中の決定は是非中止して、候補地選定委員会の設置を改めて私は求めたいと思うわけです。ごみ処理は最も住民自治が基本となる事業であります。全ての市民に協力してもらわなければ、ごみ処理はできないわけです。ごみ処理施設の周辺住民だけが苦勞すれば良い、これで12万市民のためだからということは通用しないんです。狛江市の例を前回は申し上げましたが、狛江市はそういう意味で全市的に候補地の選定委員を選んで、そしてその中でどういう候補地にしたらいいのかということを考えてもらう。そのことで、候補地になったところは、そこに決まった人たちのことにほかの地域の人が思いを寄せられるような議論がないと、やはりこれはなかなか合意にも至らないのではないかと思います。あたかも清掃関連施設整備基本計画ではいろいろな市有地を検討したかのような書きぶりになっていきますが、開示請求をして読みましたけど、候補地を選定したなんていう資料はないんです。運営協議会から言われたから市有地を検討したんであって、これでは誰が納得するかという話なんです。是非そういう点で候補地選定委員会を作っていただきたいんですが、見解を伺います。

○環境部長(柿崎健一) それでは、候補地選定委員会というお話でございます。その前に、我々としては候補地等々につきましては一定の議論はさせていただきました。清掃関連施設整備基本計画(案)の方ですけれども、32ページから建設予定地の検討ということで入れさせていただいておりますので、そちらを見ていただければなと思いますけれども、あとは、第4回だったかと思っておりますけれども、協議会の中でもこれまでの間の選定についてのことが確か載っていたはずだと思いますので、そちらの方の資料も見比べていただければなと思っ

ております。

なおかつ、候補地についてということになりますけれども、現在、我々の方とすれば、見直す考えというのは持ち合わせておりませんので、候補地を選考するための委員会などの組織を組織するという考えも持ち合わせておりません。ただし、先ほども答弁させていただいたとおり、来年度以降につきましても、施設整備に向けて、施設周辺の皆様のご意見・ご要望を伺いながら、対応できる内容についてはできるだけ対応していきたいと考えておりました。来年度以降も施設周辺の皆様のご意見・ご要望を伺う場を設けていく考えでございます。

○24番（森戸洋子議員） 候補地を選定したとおっしゃるんだったら、なぜ情報公開の開示請求をして、そういう資料が出てこないんですか。全然説明責任は果たしていないじゃないですか。おかしいです。市長、どなたかの質疑の中で、市長は全ての日程をなげうって、どこかのスポーツ大会を見に行かれたということを知りました。そういう時間があるんだったら、まず、清掃関連施設、一番根本的な業務のところ、市長は本当にこうした方々と面と向かって話し合うべきだったんじゃないですか。市長が全てなげうって地元と話し合うんだったら、私たちはいいですよ。ごみ処理問題というのは大変厳しいことになるんです。私たち7期、8期やっている議員はそれを経験しているんです。だからこそ、市長の行政に対する姿勢が本当に甘い、極めて残念だと言わざるを得ません。そのことだけは申し上げておきたいと思います。予算特別委員会もありますので、またそこら辺でやりたいと思います。